

## 子ども期のいじめ経験が 中年期の人生満足度にもたらす長期影響に関する研究

本研究室では、「子ども期のいじめ経験が中年期の人生満足度にもたらす長期影響に関する研究」を実施しています。

### 【研究課題】

子ども期のいじめ経験が中年期の人生満足度にもたらす長期影響に関する研究  
(審査番号2021166NI)

### 【研究機関名および研究責任者・研究分担者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者・研究分担者は次に示すとおりです。

研究機関	東京大学大学院医学系研究科	精神保健学分野・精神看護学分野
研究責任者	川上憲人	東京大学大学院医学系研究科 精神保健学 教授
連絡担当者	岩永麻衣	東京大学大学院医学系研究科 精神看護学 博士課程院生
研究分担者	西大輔	東京大学大学院医学系研究科 精神保健学 准教授
	帯包エリカ	東京大学大学院医学系研究科 精神保健学 特任助教

### 【研究期間】

倫理審査承認日～2026年3月31日

### 【対象となる方】

本研究では、英国の出生コホート調査 "the National Child Development Study (NCDS) " の匿名化済みデータベースを用いた二次解析を行います。この調査のコホートメンバーは1958年の出生から2020年まで追跡されている18558名で、本研究ではその一部のメンバーから得られたデータを解析します。新たに対象者を募集することはありません。

### 【研究の意義】

いじめは、世界の13-15歳の3人に1人がいじめにあったことがあると報告されているほど、子どもの社会でありふれた問題です。しかし、子ども期にいじめにあった経験は、生涯にわたって様々な影響をもたらす可能性があることが明らかになってきており、いじめ経験がもたらす長期影響に関するさらなる予測と、ネガティブな影響を低減する要因の検討が求められています。

### 【研究の目的】

本研究では、子ども期のいじめがもたらす中年期の人生満足度への影響、及びその影響に対するソーシャルサポートの効果について、いじめ経験年齢別、男女別に明らかにすることを目的としています。

**【研究の方法】**

英国の出生コホート調査 "the National Child Development Study (NCDS) "の匿名化済みデータベースを用いた二次解析を行います。この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。

**【個人情報の保護】**

データは、入手前から匿名化され個人をたどれない状態であるため、本研究で個人情報を扱うことはいたしません。したがって対象者の方の個人情報が漏れることはありません。研究結果は個人が特定できない形式で、学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと研究終了後5年間保存されます。ご不明な点があれば、下記までお尋ねください。

**【利益相反について】**

この研究に関する費用は、東京大学大学院医学系研究科精神保健学・精神看護分野の運営費から支出されています。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

**【問い合わせ先】**

東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野・精神看護学分野

研究責任者 川上憲人

連絡担当者 岩永麻衣

住所 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 03-5841-3522

FAX 03-5841-3392

メール iwanaga-mai@g.ecc.u-tokyo.ac.jp